

東京都小児救急医療体制検討部会報告書

令和4年12月

目 次

ページ数

第1 東京都の小児救急医療を取り巻く状況	
1 年少人口について	1
2 小児科医師数について	3
3 小児科標ぼう医療機関数について	4
第2 東京都の小児救急医療の現状	
1 小児初期救急平日夜間診療事業（東京都の区市町村補助事業）	5
2 休日・全夜間診療事業（小児科）	6
3 小児外傷患者	6
第3 アンケート調査結果（概要）	
1 小児初期救急平日夜間診療事業（東京都の区市町村補助事業）	1 2
2 休日・全夜間診療事業（小児科）	1 2
3 小児外傷患者	1 2
第4 小児救急医療の課題	
1 小児初期救急平日夜間診療事業（東京都の区市町村補助事業）	1 3
2 休日・全夜間診療事業（小児科）	1 3
3 小児外傷患者	1 5
第5 委員の主な意見及び見直しの方向性	
1 小児初期救急平日夜間診療事業（東京都の区市町村補助事業）	1 5
2 休日・全夜間診療事業（小児科）	1 5
3 小児外傷患者	1 5
4 地域の実情に応じた体制の構築	1 6
第6 今後の取組	
1 小児初期救急平日夜間診療事業（東京都の区市町村補助事業）	1 6
2 休日・全夜間診療事業（小児科）	1 6
3 小児外傷患者	1 7
4 地域の実情に応じた体制の構築	1 7
資料編	1 8

はじめに

東京都では、これまで患者の症状に応じた適切な医療を提供する小児救急医療体制を整備してきた。初期救急では地域における平日夜間の小児初期救急医療体制を確保し、都が実施する休日全夜間の小児救急患者に対応する二次救急医療体制の整備と併せて、小児救急医療全体のレベルアップを図ってきた。さらに三次救急では、小児重篤患者を迅速に受入れ、救命治療を速やかに行うこども救命センター運営事業を実施している。

初期救急及び二次救急については、約20年に渡り実施しており、この間、年少人口や小児科標榜医療機関が減少するなど環境の変化が生じている。このような状況のなか、都内における小児医療人材の需給見通しや地域ごとの小児救急の実施状況を踏まえ、今後の小児救急医療体制の方向性を検討すべく、令和2年の東京都小児救急医療協議会において、本部会が設置されることとなった。

部会は、令和3年から4年にかけて3回実施し、闊達な意見交換が行われた。本報告書は、部会での検討結果を取りまとめたものであり、今後、地域ごとに小児の初期救急や二次救急患者を速やかに受け入れる体制の構築を目指す議論を進めていく際の一助となれば幸いである。

令和4年12月

東京都小児救急医療体制検討部会

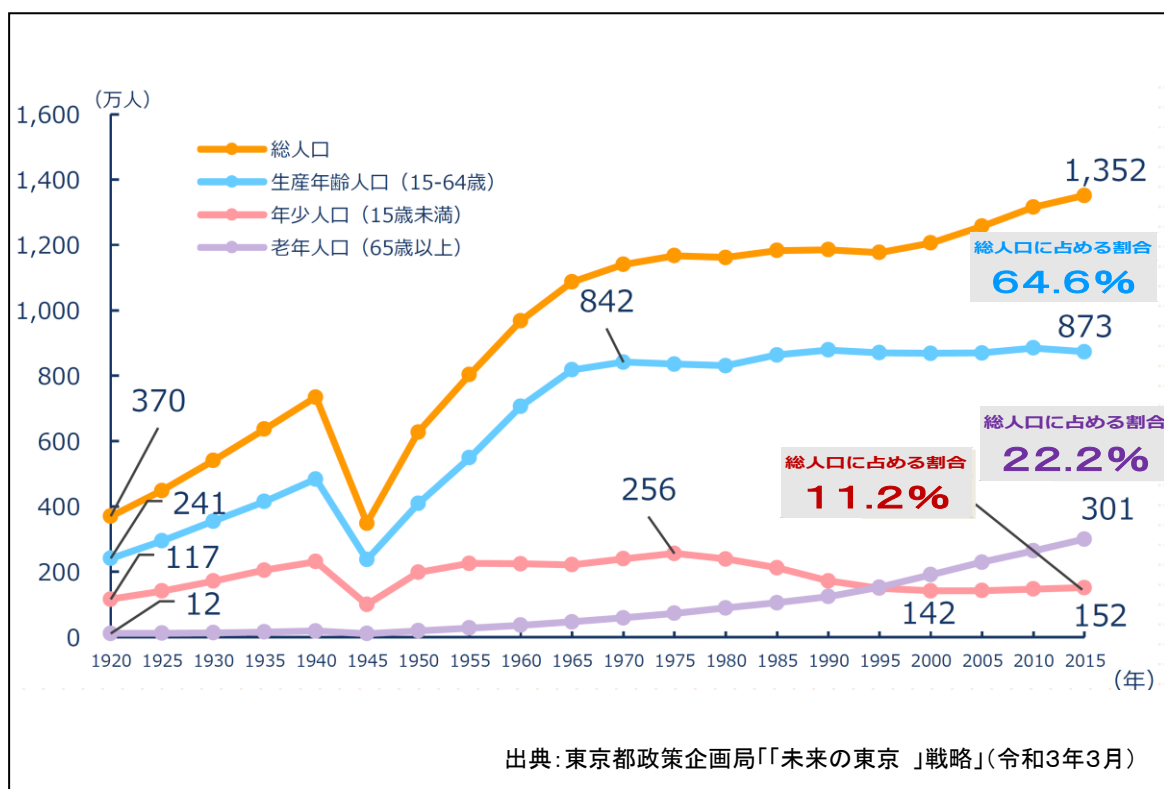
第1 東京都の小児救急医療を取り巻く状況

1 年少人口について

都内における年少人口は、第二次ベビーブーム等の影響により、1975年（昭和50年）には256万人まで増加したが、これ以降減少に転じ2000年（平成12年）には142万人となった。近年はやや増加するも、総人口に占める割合は同年以降約1割で推移している。

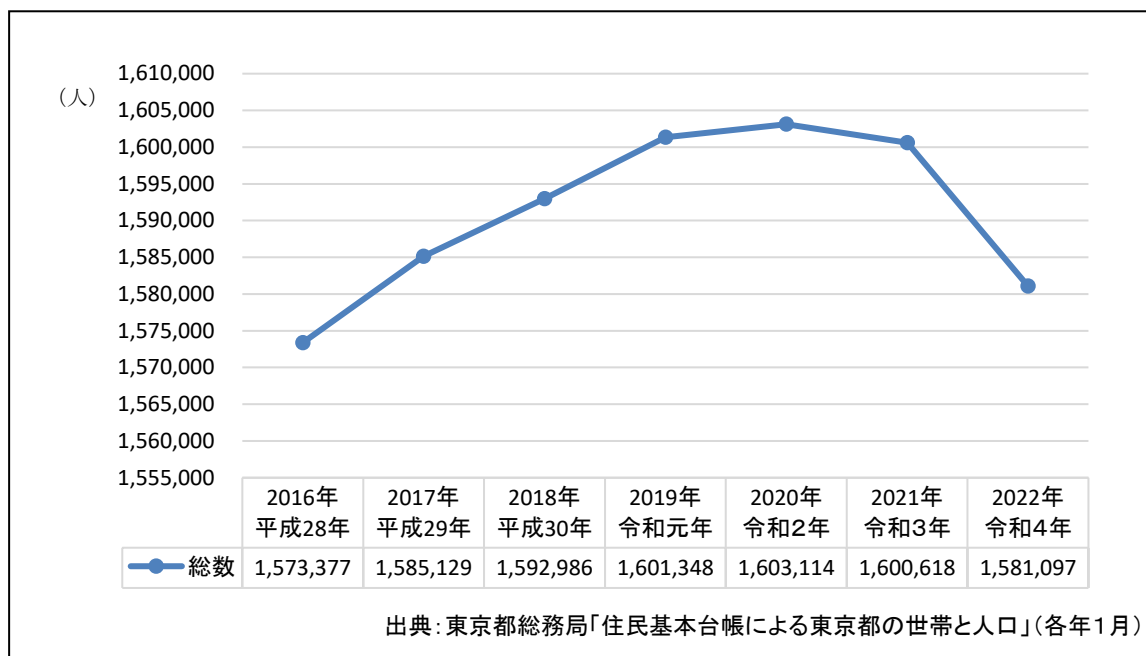
近年の年少人口の推移を見てみると、2020年（令和2年）の160万人をピークに減少に転じており、2022年（令和4年）の年少人口は158万人となっている。

【年齢3区分別人口の推移】

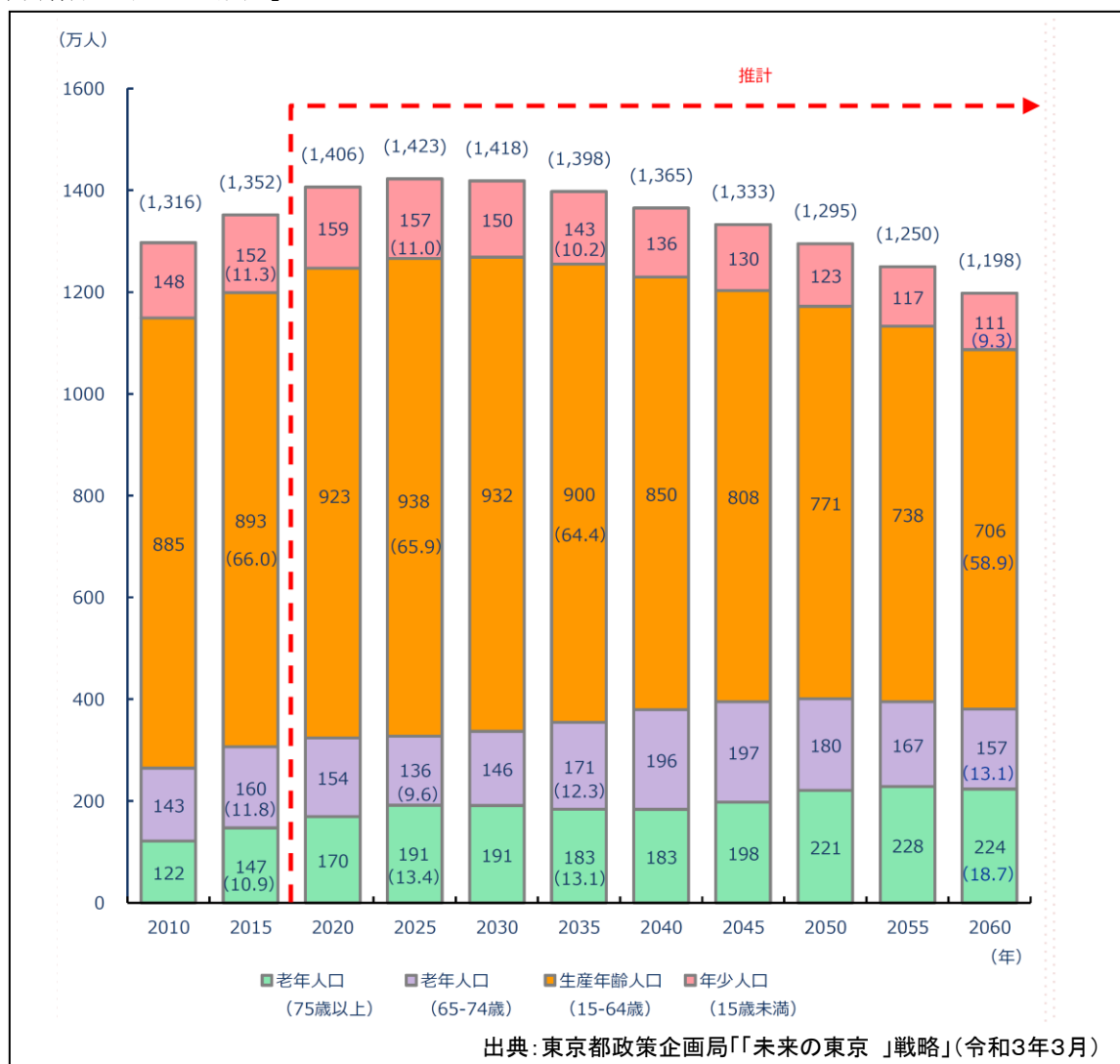


東京都の推計では、2060年（令和42年）には2015年（平成27年）と比べ約3割減少の111万人となる見込みとされている。

【年少人口の推移】



【年齢階級別人口の推計】

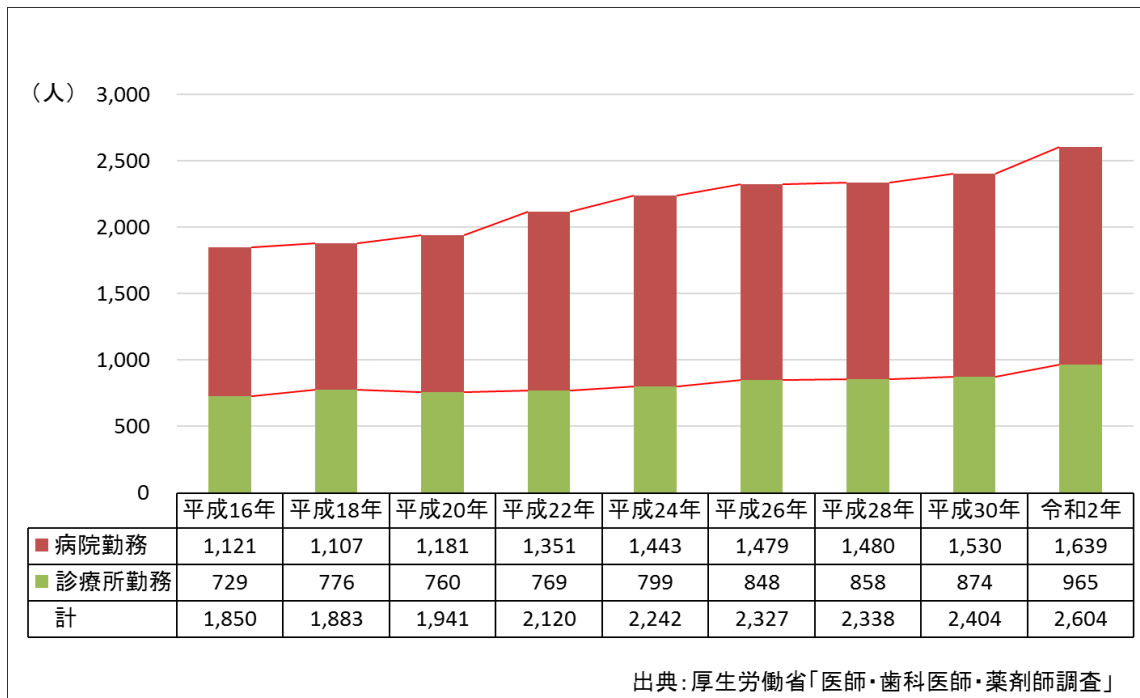


2 小児科医師数について

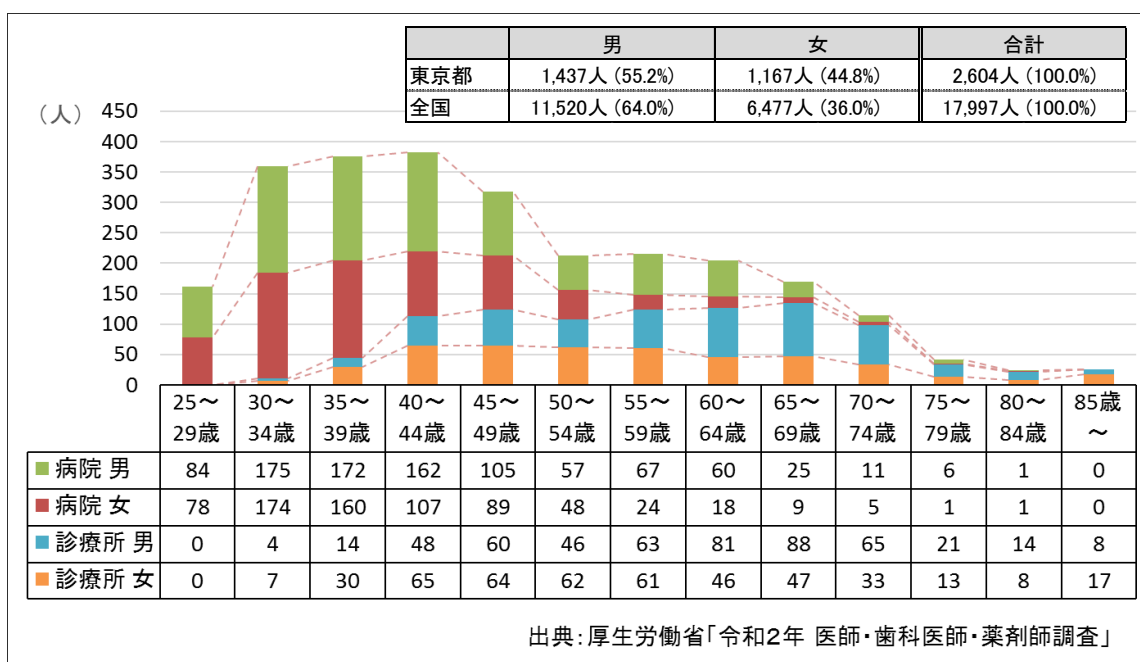
診療所勤務医師、病院勤務医師共に増加傾向にあり、男女比率では男性55%、女性45%、年代別では30代及び40代前半の医師が多い。

出産育児世代の割合が高いことから、夜間帯に勤務できる医師の不足が懸念されている。

【東京都における主たる診療科を小児科とする医師数 推移】



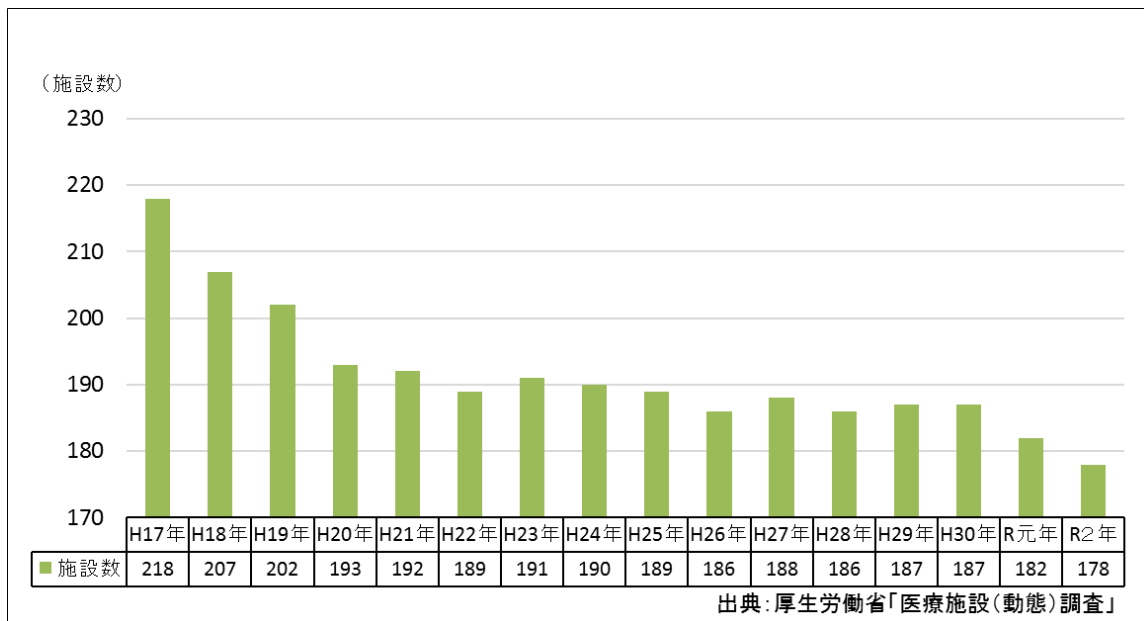
【東京都における主たる診療科を小児科とする医師数 年齢 性 病院-診療所別】



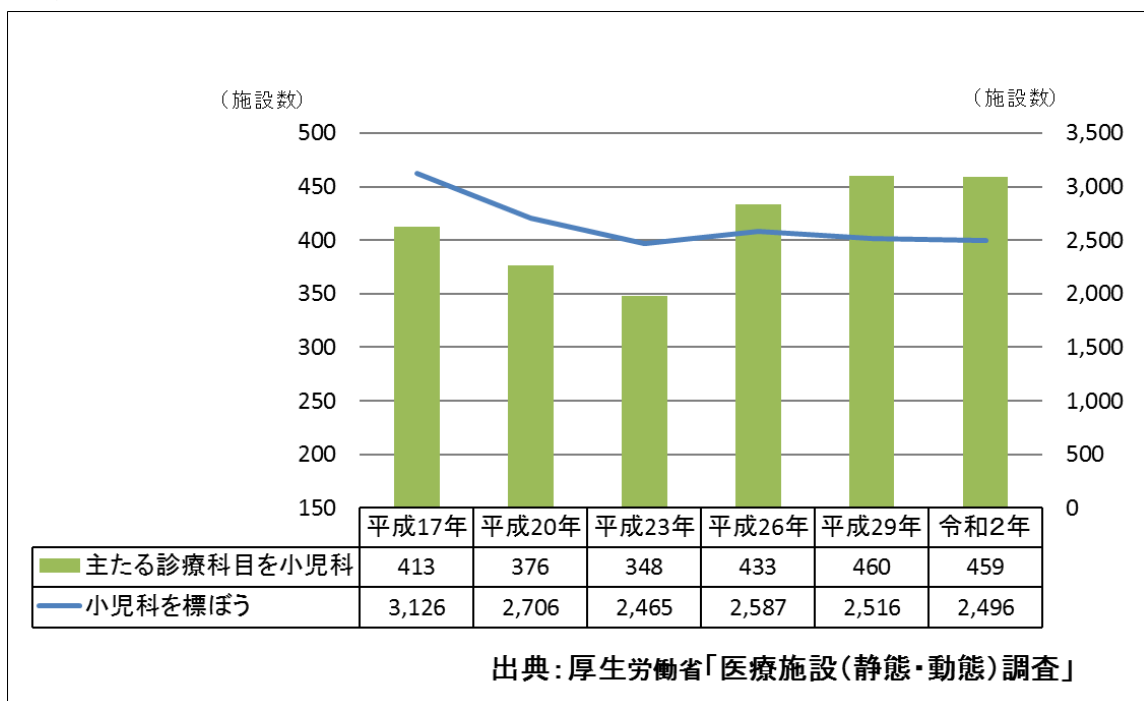
3 小児科標ぼう医療機関数について

小児科を標ぼうする病院数は減少傾向にあり、集約化が図られている一方、小児科を主たる診療科目とする診療所は近年やや増加傾向にある。

【東京都における小児科を標ぼうする一般病院数の年次推移】



【東京都における小児科を主たる診療科目とする診療所数等の年次推移】



第2 東京都の小児救急医療の現状

1 小児初期救急平日夜間診療事業（東京都の区市町村補助事業）

(1) 事業開始年度

平成16年度

(2) 実施主体

区市町村

(3) 補助基準

ア 固定施設（休日夜間急患センターや病院）で実施

イ 診療時間は、平日午後5時～午前0時までの3時間以上で、毎日又は一週間のうち複数日で実施

ウ 職員体制は、小児科医師1名、看護師1名、事務職員1名

（小児科医師については、都が実施する研修を受講した内科医等でも可）

エ 委託による実施も可能

(4) 実施状況

ア 補助対象地域は、53区市町村のうち41区市町村（令和4年4月現在）

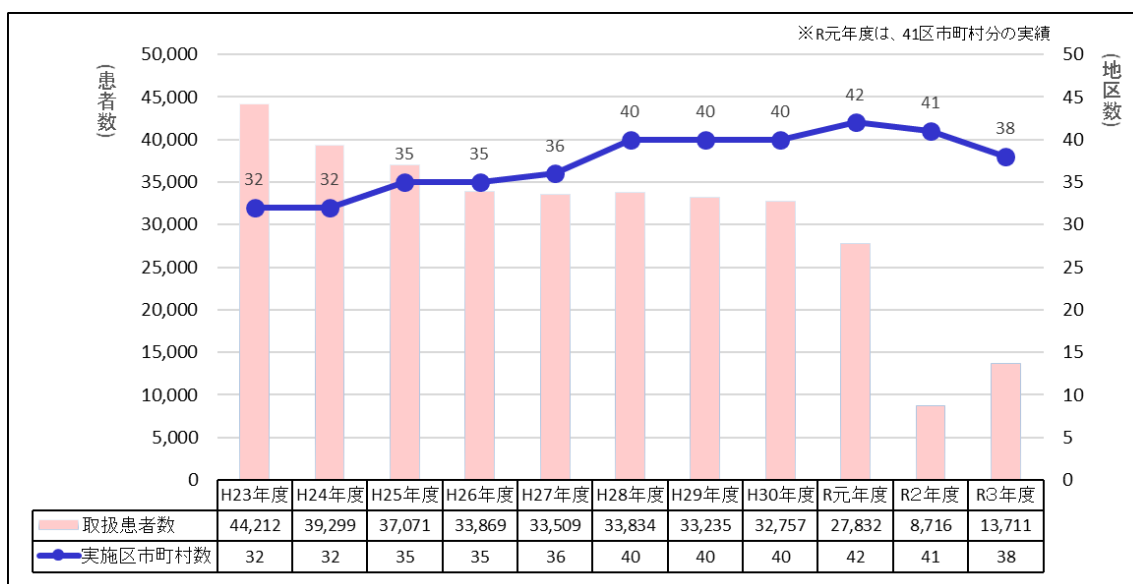
イ 41区市町村の内訳：22区16市2町1村

(5) 実施場所

ア 病院：区部13、多摩地域13

イ 診療所：区部9、多摩地域6

(6) 実績



(7) 主な特徴

- コロナ禍前、緩やかではあるが患者数は減少傾向にあった。
- 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、前年度と比べ約7割減という極端な実績となった。
- 令和3年度は、患者数は増加するも、令和元年度の半分程度の実績となった。

2 休日・全夜間診療事業（小児科）

(1) 事業開始年度

平成13年度

(2) 指定状況

53施設79床（2床指定27施設、1床指定24施設、0.5床指定2施設）
（令和4年4月現在）

(3) 指定条件

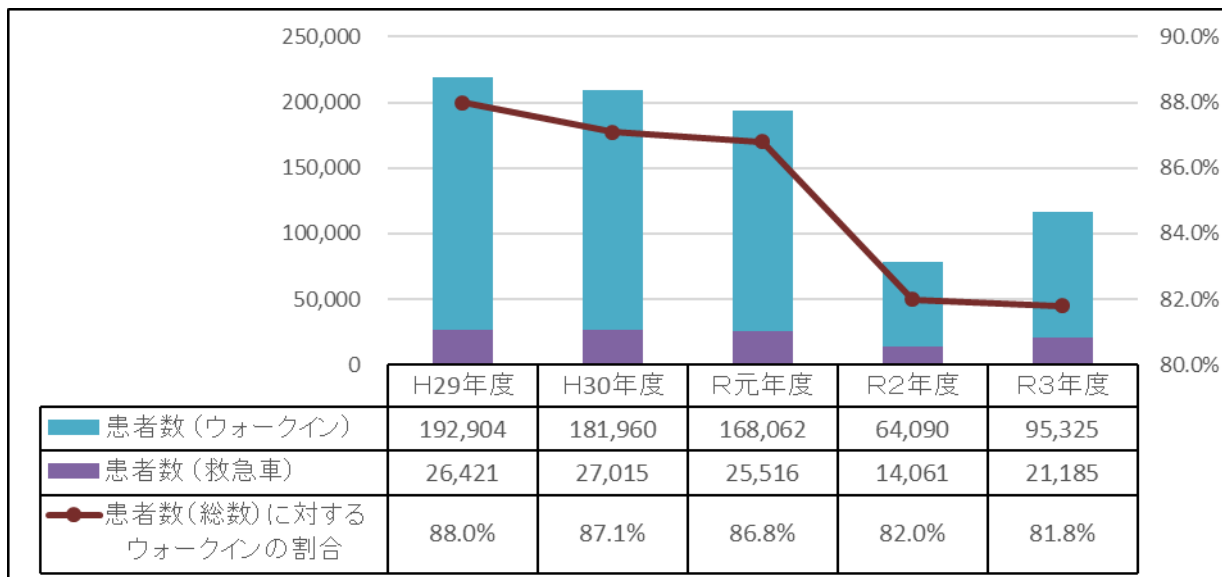
ア 1施設につき小児科医師1名確保

イ アの他に（病院や病床数等の）指定の基準なし

(4) 実績

	指定状況		患者数					入院患者数					入院率		
	施設数	病床数	総数	救急車	割合	ウォークイン	割合	総数	救急車	割合	ウォークイン	割合	総数	救急車	ウォークイン
			A=B+D	B	C=B/A	D	E=D/A	F=G+I	G	H=G/F	I	J=I/F	K=F/A	L=G/B	M=I/D
R3年度	53	79	116,510	21,185	18.2%	95,325	81.8%	11,791	3,452	29.3%	8,339	70.7%	10.1%	16.3%	8.7%
R2年度	53	79	78,151	14,061	18.0%	64,090	82.0%	8,691	2,588	29.8%	6,103	70.2%	11.1%	18.4%	9.5%
R元年度	53	79	193,578	25,516	13.2%	168,062	86.8%	17,742	4,159	23.4%	13,583	76.6%	9.2%	16.3%	8.1%
H30年度	53	79	208,975	27,015	12.9%	181,960	87.1%	17,838	4,102	23.0%	13,736	77.0%	8.5%	15.2%	7.5%
H29年度	54	80	219,325	26,421	12.0%	192,904	88.0%	17,930	4,063	22.7%	13,867	77.3%	8.2%	15.4%	7.2%

【休日・全夜間診療事業（小児科）患者数及びウォークインの割合】



(5) 主な特徴

- 患者の大多数が軽症（入院率10%前後）であるが、経年で見ると入院率は増加傾向（軽症の割合は減少傾向）
- ウォークインでの来院が80%超であるが、経年で見ると減少傾向

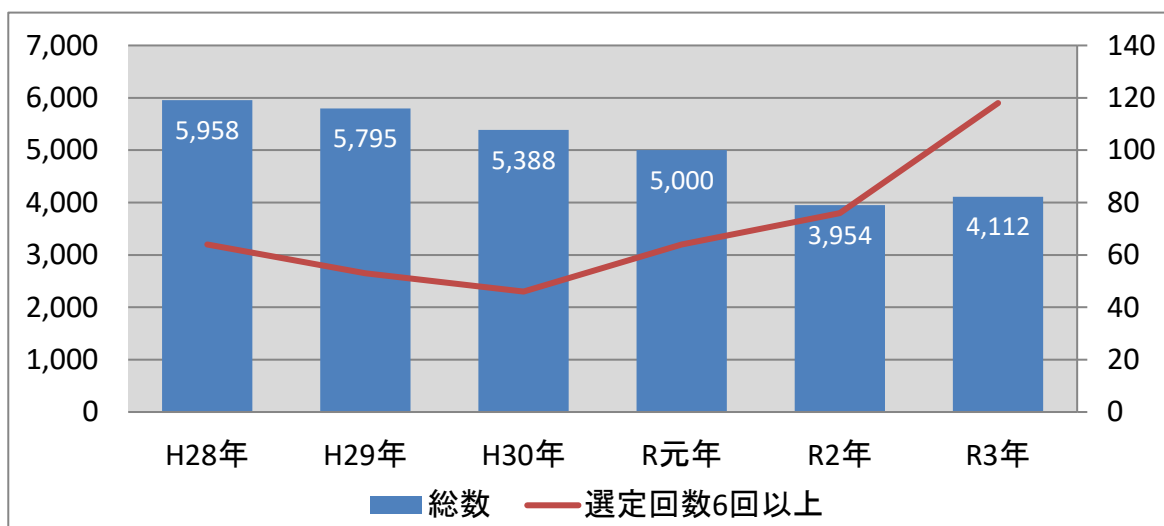
3 小児外傷患者

(1) 現状分析

ア 全体の推移（東京消防庁管内救急搬送数（0～14歳）のうち、整形外科選定事案（選定科目に「整形外科」を含むもの））

- 総数は減少傾向
- 東京ルールに該当する事案（選定回数が5回を超える事案。以下「選定回数6回以上」という。）は、件数・割合ともに平成30年まで減少傾向。その後増加傾向
- 選定回数6回以上は、3日に1回の頻度で発生（令和3年）

	H28年	H29年	H30年	R元年	R2年	R3年
総数	5,958	5,795	5,388	5,000	3,954	4,112
うち選定回数6回以上	64	53	46	64	76	118
選定回数6回以上/総数	1.07%	0.91%	0.85%	1.28%	1.92%	2.87%



(参考：整形外科選定事案以外)

	H28年	H29年	H30年	R元年	R2年	R3年
総数	48,756	46,534	46,484	48,350	31,094	36,685
うち選定回数6回以上	59	70	62	98	133	271
選定回数6回以上/総数	0.12%	0.15%	0.13%	0.20%	0.43%	0.74%

イ 発生地域（医療圏）別件数

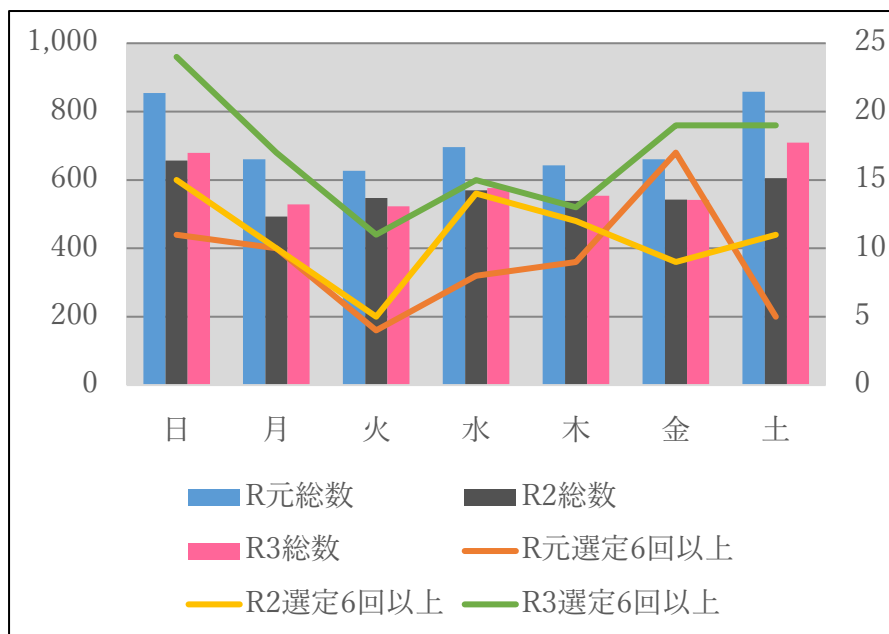
区東北部は、「選定6回以上」の件数・発生率が高い傾向がある。

医療圏	令和元年			令和2年			令和3年		
	総数	選定6回以上	発生率	総数	選定6回以上	発生率	総数	選定6回以上	発生率
区中央部	380	3	0.79%	252	6	2.38%	299	13	4.35%
区南部	392	7	1.79%	332	6	1.81%	381	12	3.15%
区西南部	471	2	0.42%	352	4	1.14%	334	8	2.40%
区西部	390	5	1.28%	328	5	1.52%	364	5	1.37%
区西北部	659	6	0.91%	578	10	1.73%	653	14	2.14%
区東北部	632	16	2.53%	496	18	3.63%	511	34	6.65%
区東部	598	7	1.17%	424	16	3.77%	480	22	4.58%
西多摩	180	0	0.00%	152	1	0.66%	134	0	0.00%
南多摩	490	9	1.84%	455	4	0.88%	356	2	0.56%
北多摩西部	231	2	0.87%	160	1	0.63%	150	1	0.67%
北多摩南部	315	3	0.95%	217	1	0.46%	248	3	1.21%
北多摩北部	262	4	1.53%	208	4	1.92%	202	4	1.98%
合計	5,000	64	1.28%	3,954	76	1.92%	4,112	118	2.87%

ウ 発生時間帯・曜日別件数

○ 曜日別件数推移

「総数」は、土日での発生件数が多い。



曜日	令和元年		令和2年		令和3年	
	総数	選定6回以上	総数	選定6回以上	総数	選定6回以上
日	854	11	657	15	679	24
月	661	10	493	10	529	17
火	627	4	547	5	523	11
水	696	8	570	14	576	15
木	643	9	539	12	554	13
金	661	17	543	9	542	19
土	858	5	605	11	709	19
合計	5,000	64	3,954	76	4,112	118

○ 時間帯別件数推移

「総数」・「選定6回以上」とともに概ね14時から20時までの間で発生件数が多い。